

識字学級が生きがい

年に一度、仲間との再会を

よみかき交流会

2018年度よみかき交流会が1月26日、27日、白浜町にあるホテルシーモアでひらかれ、県連から16支部71人、行政や指導者など、全体で130人が参加した。

はじめに、主催者を代表して木皮亨・県教育委員会生涯学習局長から「このよみかき交流会は、学習の機会が保証されなかった人びとや在日外国人など、識字教育を必要としている人が1年に1回集まり、学習の成果を発表する場として、また仲間との再会の場となっています。『すべての

人びとに文字を』というスローガンのもと、識字問題の啓発や識字教育の推進をすすめていきたい」とあいさつした。

研修①の体験発表では、杭ノ瀬識字学級の東岡百合子さんから「連れ合いと結婚して、はじめて部落差別を知った。連れ合いからほくと結婚をすると、あなた

の家族、知人から冷たくされる」と謝ってきた。私は徳島出身で部落の存在を知らなかった。それでもなんと結婚生活をつづけ、杭ノ瀬という部落に住み、識字学級にであった。識字学級には、私と同じ立場の生徒もおられ、共感でき

た。今では、この識字学級が私の生きがい。識字学級では、先生が準備された漢字のプリントをしたり、牛乳パックで椅子を作成したり、5月末に那賀識字学級との交流会でホテルを觀賞したり、11月には懇親会など、さまざまな交流会をすすめている。この識字学級をつづけていきたいという思いで、今も識字学級にかよっている」と結婚を機に部落で生活し、識字学級との

あいから仲間とともに解放運動に参加していることが発表された。

つづいて「識字の営みをいつまでも」とだいて、平井識字学級の中島俊之さんから実践発表があった。

芦原小学校で、学習支援推進教員をしており、5年前から平井識字学級に参加している。平井識字学級は、30年ほどの歴史があり、毎週土曜日午前10時〜12時まで学習し、6人ほどの識字生が出席している。識字生の何人かは、部落差別により小学校・中学校にかよえず、1年生のひながな、カタカナ、漢字、算数などのプリントをしたり、絵手紙、日記、絵を書くなど幅広く活動している。個性豊かで歴史や伝統のあるこの識字の営みを、いつまでもつづけていくことを願っている

と報告があった。

研修②では、会場に展示されている各識字学級の学習の成果を見学した。

研修③では、5つの分散会にわかれ、体験発表や実践発表を聞いた感想や差別体験、みずからの歩みなどが語られた。

研修④では、会場に展示されている各識字学級の学習の成果を見学した。



壁には、識字生が書いたタイトルがかかげられた



文字を奪いかえず



分散会で、意見を出し合う



よみかき交流会の楽しみのひとつ!

2日目は、各分散会の報告と講演があった。分散会では、他の識字学級との交流会が学びの力になっていることや被差別体験、みずからの歩みを語れることは人生の宝になった。識字学級が終わることのないよう若い世代に継承したいなど、多くの意見がだされた。

最後に「見つめる 語りあう つながる 識字運動」とだいて、菅原智恵美さんから講演があった。大阪での識字学級でのとり

保育集會にむけて、議論

保育企画運営會議

第1回企画運営會議が4月17日、広島県福山市人権交流センターでひらかれ、約20人が参加した。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

はじめに、吉岡正博・第42回全国人権保育研究集會中央実行委員会委員長から、さまざまな状況から人権が危ぶまれる時代なのか、子どもや保護者を取りまく状況も厳しい。保育が保障されるよう、集會の成功をつくりあげようとあいさつした。

★次号で詳細を報告します。

◆部落解放全国保育活動者會議

○日時・6月8日(土) 9日(日)

○場所・福山市人権平和資料館ほか

◆第42回全国人権保育研究集會

○日時・11月9日(土) 10日(日)

○場所・ふくやま芸術文化ホール「リーデンローズ」大ホールほか

★次号で詳細を報告します。